

闘魂旗 工大一大会ぶり

第74回
県高校総体

最終日

第74回県高校総体体育大会は最終日の7日、県内各地で16競技を行い、閉幕した。男子は、レスリングなど6競技で頂点に立った八工大一が総合優勝の闘魂旗（2大会ぶり24回

久田（工大一）優勝
グレコ65キロ級

目、青森山田が同2位の敢闘杯（2大会ぶり12回目）を獲得。女子は、2競技を制した青森西が総合優勝の明旗（33大会ぶり16回目）、弘前実が同2位の友情杯（4大会ぶり4回目）を手にした。最終日は、フェンシング団体で田名部が男女ともに優勝、弓道団体男子で青森西が初優勝し、女子で弘前中央が33大会ぶり3回目の栄冠に輝いた。全国高校総体は7月24日、新潟県で開幕。福井県を主会場に、北信越各県で約1カ月間競技を行う。
（本紙取材班）



「レスリング男子個人グレコロマン60キロ級決勝」前日のフリースタイルと合わせ2冠を達成した嶋守（八学光星）

光星・嶋守が2冠
○：レスリング男子個人グレコロマン60キロ級は、嶋守（八学光星）が圧倒的な強さで優勝。前日のフリースタイルと合わせ、2冠を達成した。この日の決勝は開始早々に寝技を繰り出し、ポイントを連取。1分半足らずで8点を奪い、無失点でテクニカルフォール勝ちを取った。「大会に出られなかった選手の気持ちにいい試合ができた」と胸を張る。中学まで陸上選手だったが高校からレスリングに転向。着実に実力をつけ、3年生となった現在は副主将として部を引っ張る。自身初となる8月の全国大会にはフリースタイルで出場予定。「全国の舞台で自分がこれまで通用するか試したい」と前を見据えた。